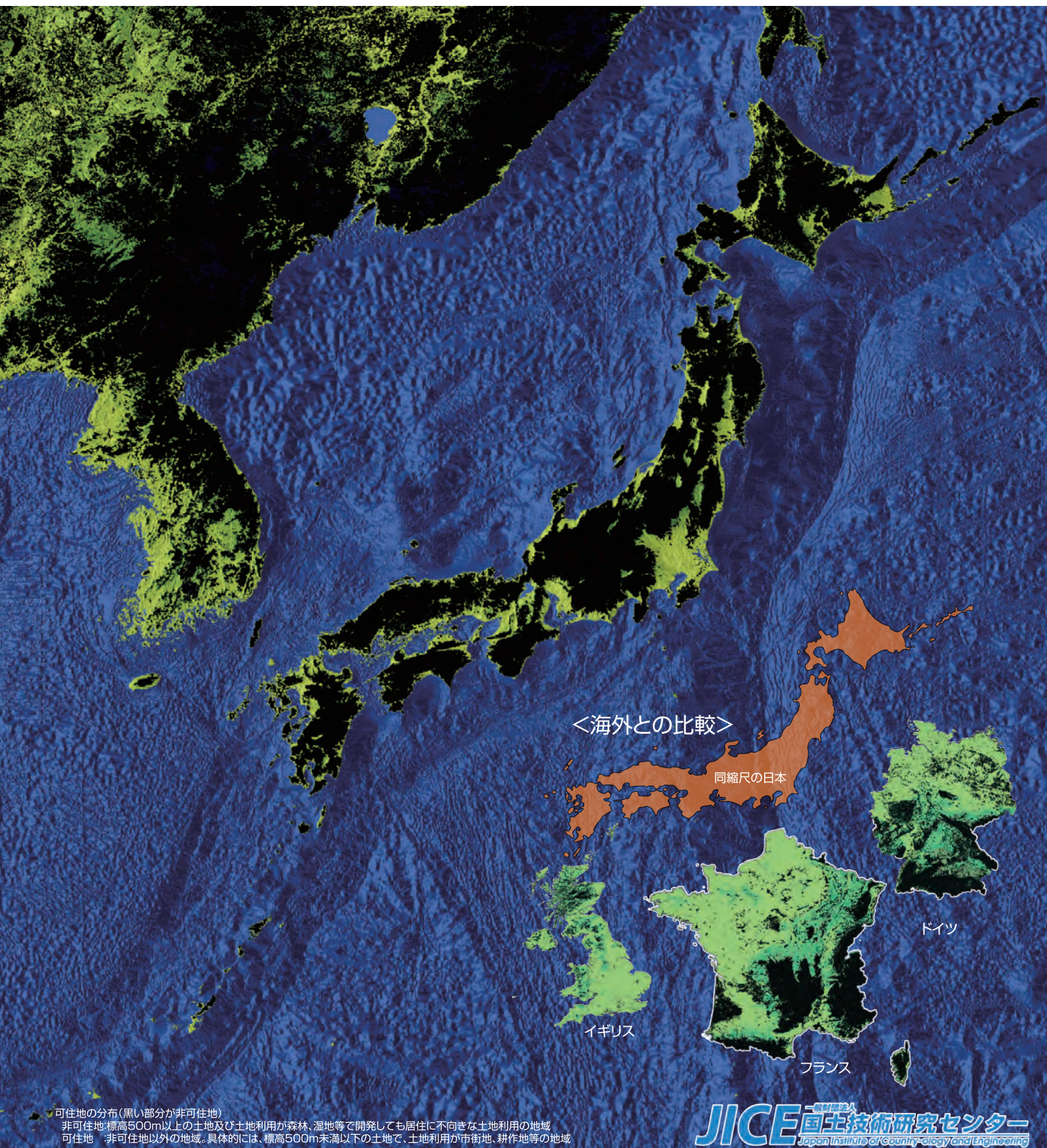


JICE REPORT

2013/第23号

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF COUNTRY-LOGY AND ENGINEERING



今号の表紙は、居住に不向きな「非可住地」とそれ以外の「可住地」について、日本とイギリス、フランス、ドイツの比較を示しています。

本表紙では、「非可住地」を標高500m以上の土地及び現況の土地利用が森林、湿地等で居住に不向きな土地利用の地域とし、「可住地」は非可住地以外の地域で、具体的には標高500m未満の土地で現況の土地利用が市街地、耕作地、草地等の地域としています。

最も可住地の割合が高いイギリスは87%、フランスは66%、最も割合の低いドイツでも63%が可住地であるのに対し、わが国の可住地は26%と30%にも満たないことがわかります。

国土の面積はイギリスの1.5倍でも、可住地面積ではイギリスの半分の広さとなるのです。

日本列島の中央を縦走する脊梁山脈により、標高の高い地域が連坦するわが国では、人が住むために、より多くの苦勞が必要となる厳しい自然条件の中で暮らしています。

国 名	国土面積 (万km ²)	可住地面積 (万km ²)	国土面積に占める 可住地割合(%)
日 本	37.86	10.13	26.8%
イギリス	24.38	21.27	87.2%
フランス	54.79	36.38	66.4%
ド イ ツ	35.67	22.62	63.4%

※以下の出典データをもとにJICEにて独自に集計

出典)

地形データ：Shuttle Radar Topography Mission SRTM 30

植生データ：Global Land Cover 2000